



国見っ子

令和元年度 第13号
国見町立国見小学校だより
令和2年1月8日
発行者 校長 菅野敏彦

令和2年、2020年のスタート



令和2年、2020年が明け、学校では第3学期がスタートしました。今年もどうぞよろしくお願いします。

さて、3学期は50日間です。1・2学期より期間は短いですが、学習のためにはとても重要な学期となります。確実な学力を身につけて次の学年に進級するために4月から学習してきたことを総復習する時期です。また、一段レベルの高い問題にも挑戦してさらに自分の力を伸ばしていく時期でもあります。子どもたちにはぜひ頑張ってほしいと思います。ご家庭の応援もどうぞよろしくお願いします。

今年は、十二支の子年（ねどし）。子年はどんな年とされているのか調べてみたところ、「子」の字には新しい生命の始まりという意味があり、そこから「新しい物事や運気のサイクルの始まる年」となっていました。子どもたちには、昨年までの反省を生かしながら様々なことに前向きにチャレンジし、心身ともに成長する年になってほしいと思います。

来年度の教育課程について～行事等の見直しを検討～

学校では、令和2年度の学習カリキュラムである教育課程を編成する作業に入っています。令和2年度からは、新学習指導要領の完全実施となり、5・6年の外国語活動が教科としての外国語科になり70時間の授業時数で実施します。また、3・4年の外国語活動は35時間の授業時数で実施となります。なお、国見小学校ではすでに新学習指導要領への移行期にあたる今年度から、5・6年は70時間、3・4年は30時間の外国語活動を実施しています。他の多くの小学校は、来年度は5・6年と3・4年でそれぞれ20時間も授業時数を増やさなければなりません。

今年度は4・5月に10連休があり授業日数がその分少なくなりましたが、来年度は例年と同じ程度となります。さらに、国見小学校は5・6年外国語科と3・4年外国語活動の時数は今年度中に増やしているのです。大きな問題はないように思われますが、以下の点から来年度も授業時数の確保の工夫が必要な状況です。

- 教師の働き方改革が推進され、教師が子どもと向き合うことができる時間を増やすことが求められている。
- 自然災害による臨時休業やインフルエンザの流行による学級・学年閉鎖による授業日数の減少がここ近年毎年度のように起こっている。

教育課程の編成は、文部科学省の定める各教科の標準時数を維持することを原則とするので、各教科の時数確保は最優先となります。よって、国語や算数等の各教科の授業時数を確保していきながら、行事等の見直しをすることにより、上記2点への対応を図っていくことがどうしても必要になります。

3学期になり学校では本格的に教育課程編成作業に取りかかっていますが、このような理由から来年度の行事等の見直しも検討していきます。なお、検討した来年度の行事については、2月末のPTA総会で報告する予定です。



＜市川様が生けられた生け花＞

ご厚意の生け花

国見小学校の正面玄関にいつも美しく生けられてある生け花をご覧になられていると思います。これは、町内で生け花の先生をされておられる市川公子様のご厚意で、お花を準備され生けてくださっているものです。

何年も市川様は毎週国見小学校にお出でになり、生け花を生け続けてくださっておられます。おかげで教職員やお客様が美しい生け花に出会えた喜びをもって、校内に入ることができます。

市川様、本当にありがとうございます。



＜花を生けられる市川様＞

